

## 第 5 回 川口中学校区地域づくり推進会議 議事概要

日時	令和3年(2021年)12月5日(日)9:30～12:00
場所	川口中学校 被服室
出席者	参加者:荒井、稲原、白鳥(信)、高野、田倉、外山、内藤(佳)、内藤(ト)、中尾、中村、平井、安田、山口 高齢者あんしん相談センター川口:小林、太田 高齢者あんしん相談センター恩方:勝野 第1層生活支援コーディネーター:今泉 はちまるサポート恩方:馬場 町会・自治会防犯灯担当課長:塩澤 八王子地域 PAL-ETTE:佐藤、平島 未来デザイン室:今川、野田、安齋、牧瀬 RPI:笠原、丸木、藤原
見学者	八王子未来 CAN-VAS:石井、福田
配付資料	・第5回川口中学校区地域づくり推進会議資料 ・資料1 川口中学校区地域づくり推進計画(案) ・資料2 第4回川口中学校区地域づくり推進会議の検討結果 ・資料3 川口中学校区のアクションプラン一覧(案)【更新版】 ・資料4 優先的アクションプラン 検討用ワークシート ・資料5 川口中学校区地域カルテ ・別紙 第5回川口中学校区地域づくり推進会議 事前検討資料 ・第3回川口中学校区地域づくり推進会議 議事概要(案) ・第3回川口中学校区地域づくり推進会議 ワーク内容

### 1. 開会

未来デザイン室から挨拶。

### 2. 議題

#### (1) アクションプランを検討しよう

##### ア 地域別推進計画の構成の確認

資料1「川口中学校区地域づくり推進計画(案)」を用いて「川口中学校区地域づくり推進計画(案)」の構成と掲載イメージを事務局より説明。参加者からの意見及び質問の概要は以下のとおり。

##### 参加者意見及び質問

- ・資料1のp12に掲載されている事例では、行政からどの程度資金面で協力しているのか、運営はボランティアなのかを教えてください。

全国でも地域づくりに関する事業が行われており、ここではその一部を紹介している。本市としても、地域活動への将来的な財政的支援について、モデル地区での検証をふまえ、今後検討していきたい。(未来デザイン室)

資料1のp12の事例のうち、まちづくり協議会の場合は、地域で活動している住民が集まり、活動している。NPO法人の例では、任意団体ではやり切れない事業を法人化することで実施している。まずは

協議会方式で進め、どこかのタイミングで法人化することも可能。ボランティアで運営していく以外にも、様々な方法がある。今後、そういったことも推進会議の場で議論できるとよい。(RPI)

- ・ 地域づくりの活動も、社会福祉協議会のように職員が有償で働ける仕組みにするのが望ましいと考える。ボランティアでは持続できない。

今すぐに有償で働ける仕組みの構築は難しいが、ボランティアとしてだけではない活動の在り方の整理も今後行っていきたい。(未来デザイン室)

- ・ 地域から企画書や立案書と予算額を市に提示すれば、予算について検討してもらう余地はあるのか。地域づくり推進会議で今後、様々な取組を行っていくために、まずは地域別推進計画を策定していただくことになるが、そうした計画を進めていくうえで必要になる予算からまずは検討したい。(未来デザイン室)

- ・ 丸の内などの東京駅付近のまちづくりには都市計画の専門家を入れて進めているが、八王子市でも専門家を導入する考えはあるか。

川口や長房においては、企業や事業者を会議の場に呼ぶ前に、まずは地域活動を行っている皆様との議論を土台としてスタートしたい。市としては、地域で活動している皆様との議論をまずは大事にしたいと考えている。(未来デザイン室)

- ・ 推進会議において検討する前に、八王子市の将来ビジョンがあるべきではないか。「長期ビジョン((仮称)はちおうじ未来デザイン 2040)」において、2040年に向けて市としてどうしていきたいのかが知りたい。また、「八王子ビジョン 2022」との違いや新たな課題についてもどう考えているのか。

八王子ビジョン 2022 は 10 年前に市民会議方式で市民の方に素案を作成いただいて決定した。一方、今回の推進会議では中学校区という単位で、地域ごとの課題や魅力を見つけて計画を作っていくアプローチである。八王子ビジョン 2022 は改定する予定だが、その際には、「地域づくり」との整合を図っていく。(未来デザイン室)

- ・ 上川地区は少子高齢化が進んでいるが、地区が市街化調整区域になっていることで、宅地開発が進まず新しい住民が入ってこない。八王子市として区域の見直しについての考えはないものか。そうした行政からの将来に向けてのビジョンがないと、市がどう考えているのかわからない。

調整区域の利活用については、市街化調整区域の土地利用に関する条例において、地域と行政とで検討して開発できることになっている。それ以上は、国の法律の制限がある。(参加者)

## イ 検討結果(第4回)の振り返りとアクションプランの決定

事務局より、資料2「第4回川口中学校区地域づくり推進会議の検討結果」、資料3「川口中学校区のアクションプラン一覧(案)【更新版】」を用いて説明。各グループに分かれて前回の検討内容を振り返った後、アクションプランとして位置付ける分野の検討を行った結果、5つの分野をアクションプランとすることで決定した。各グループの主な検討内容は以下の通り。

### 各グループの検討内容

#### グループ1

- ・ 川口では、交通の利便性向上が課題であり、行政とそうした課題を共有してから連携を密にしたいという意見が出た。
- ・ 若者が地域から出て戻ってこない一方で、自然が豊かで子育てに良い環境であることから、川口に魅力を感じ、定住する住民の獲得の余地が十分であることを確認した。
- ・ 市のビジョンに関連して、今後は地域住民からの提案も必要という意見も出た。

## グループ 2

- ・「地域の担い手育成」が喫緊の課題であるという意見が出た。
- ・「地域の担い手育成」については、リタイアしたばかりの地域住民が、より高齢の方の通院や買い物の際の移動手段を提供することで、担い手育成だけでなく地域の交通の利便性向上につながるなどの具体的なアイデアが出た。また、今後の担い手となる新しい住民に入ってきてもらうために、町会のあり方を変えて参加を促したい。子どもがいる PTA などの若い世代の人が参加しやすい工夫が必要であるという意見も出た。

## グループ 3

- ・「行政との連携強化」については、市として税収が減るなかで、地域活動に予算を付けてもらうためには、中長期のプランや、地域活動によって行政が受けるメリットを提示していくことが必要との意見が出た。

## ウ 優先的アクションプランの決定および内容(5W2H)の検討

事務局から高松市のイベントカレンダーの事例、宇都宮市明保地区のコミュニティカレンダーの事例、恩方マルシェの事例を紹介した。

事務局案として、優先的に取り組む分野を「プラットフォームづくり」にしぼり、副題を「地域の情報や担い手が集まる場づくり」にすることを提案し、参加者からの同意を得た。各グループでの主な検討内容は以下のとおり。

### 各グループの検討内容

#### グループ 1: コミュニティカレンダーづくり

- |       |   |
|-------|---|
| 実施概要  | 各団体の横のつながりや情報共有のために、コミュニティカレンダー作りを実施する。                 |
| いつ    | 季節ごと  |
| ターゲット | 地域全体。世代別やカテゴリー別にコミュニティカレンダーを作成するとわかりやすい。                |
| 進め方   | 実行委員会を設置して作成を進める。<br>推進会議の場に来ている団体の情報などをもとに、まずは一度作ってみる。 |

#### グループ 2: 推進委員の設置(地域の情報を吸い上げて共有・発信する取組)

- |         |  |
|---------|--|
| 実施概要    | 町会・自治会などの地域の活動団体に推進会議との連絡調整を行う推進委員を設置する。その推進委員が集まり、推進会議の拡大会議を行う。 |
| 頻度      | 3ヶ月に1回、年4回程度。  |
| どこで     | 川口事務所や、地域に点在している空き家を活用する。<br>小中学校の空き教室もコミュニティの活動の場として使えるのではないかな。 |
| 担い手・協力者 | 推進会議の構成団体、川口商店街、移動販売の事業者、地域のNPO団体から推進委員になっていただきたい。               |

#### グループ 3: マルシェ

- |      |  |
|------|--|
| 実施概要 | マルシェ実施の目的として、地域活性化、困っている人を助ける、地域資源の活用、顔が見える関係づくり、多世代交流を行うことが挙げられた。マルシェの内容としては、農産物の販売、フードライブ、イベント実施、市の情報発信など。 |
| いつ   | まずは一回やってみる。  |
| どこで  | マルシェのための拠点と、市内の公園などへの出張。   |

担い手・協力者	最初に立ち上げの際には、有志のボランティアに協力してもらう必要がある。 また、公園利用などの点では市との連携も必要。 マルシェの情報発信は、中学生などの若い世代に担ってもらいたい。
ターゲット	地域の関係づくりを進めるため、新しく地域に入ってきた住民の方をはじめ、農家、高齢者、子どもなど。
物資・資材	お金と活動場所
進め方	地域にマルシェに近い活動があるのでヒアリングをする。 推進会議の枠組みを活用して、マルシェを実施する。

## (2) 地域カルテの内容を検討しよう

### ア 地域固有ページの作成

事務局より参加者からの事前検討資料の内容をふまえて、【伝統芸能】と【自然・名所】の 2 つのテーマで、各 1 ページずつのレイアウトを検討することを説明した。

各参加者が担当したいテーマを選択し、2 グループに分かれて検討した。また事務局より、本日の検討結果をふまえ、次回第 6 回の推進会議に情報を持参するよう、参加者に依頼した。各グループでの主な検討内容は以下のとおり。

#### 各グループの検討内容

##### 【自然・名所】グループ

- ・ ホタル、サンショウウオ、ミツバツツジ、カタクリなどの生物・植物や、北浅川、川口川、今熊山、高丸山などのスポットのほか、川沿いの散策や、お寺巡り、七福神めぐりなどの活動も挙げた。
- ・ カルテで示す際には、川口川から今熊山までのウォーキングルートを掲載し、その道中にある名所や自然環境を紹介する形式としたい。
- ・ 次回は各自がルートづくりの素材を持ち寄る。

##### 【伝統芸能】グループ

- ・ 伝統芸能をテーマに検討し、箆(ささら)獅子舞や今熊神社の獅子舞、犬目のお囃子などが掲載要素として挙げた。地域が受け継いできた芸能を紹介し魅力を知ってもらいたい。
- ・ 一方で、地域の芸能を継承するための取組や、担い手からのメッセージなども掲載し、鑑賞するだけではない魅力も伝えたい。
- ・ 次回は、上記に関する情報を各自持ち寄る。犬目のお囃子については、情報を知っている方を紹介してもらう必要がある。

連合町会としては補助金を出しているの、犬目町会に聞くとよい。お囃子の活動拠点は犬目の町会会館ではないか。(参加者)

基礎情報は、犬目町会のホームページの情報をもとに掲載することができる。(RPI)

## (3) 地域づくりワークショップの内容を確認しよう

事務局より地域づくりワークショップの日時・場所・内容を説明した。特に、グループワークの際に、新しい参加者に対し、推進会議参加者からこれまでの検討内容を説明してもらう予定であることを説明した。

### 3. その他

- ・ 未来デザイン室から以下の事務連絡を行った。
  - 地域づくりワークショップの参加者に空きがある状況である。アクションプランの実現のためには地域の仲間を増やすことが必要であり、参加者の皆様からお声がけしていただきたい。ご紹介いただける場合は、住所、お名前、生年月日、所属、電話番号を添えて、12月10日(金)までに未来デザイン室へ連絡していただきたい。
  - 次回、地域づくりワークショップは、12月18日(土)9時30分～、松枝小学校体育館にて実施予定。防寒対策をして参加していただきたい。
  - 第3回の推進会議の議事概要を配布する。修正があれば12月10日(金)までに未来デザイン室へ連絡していただきたい。

以上

# 第5回 川口中学校区地域づくり推進会議 ワーク内容

## アクションプランについての3グループの検討内容

	地域の担い手育成	地域情報の発信力強化	交通利便性の向上	地域コミュニティの活性化	行政との連携強化
グループ ①	<p>高齢者が高齢者を支えている現状</p> <p>推進会議に若い人達の意見がない</p> <p>若い世代の街づくりの意見を聞きたい</p> <p>地域の人だけではなく第3者の参加がほしい</p>		<p>若い人が住み続ける為に必須</p> <p>住宅地として選定する為に重要な条件</p>		<p>行政と地域情報の共有ができていない</p> <p>市街化調整区域の土地利用</p> <p>病院の送迎個人の車使用 ↓ 行政に考えて欲しい</p>
グループ ②	<p>町内会の参加率向上</p> <p>町会参加のメリットを訊ねられる</p> <p>若者に「NO」を言わない町会</p> <p>若い人の参加の促進</p> <p>地域の担い手の育成</p> <p>リタイアした方の仕事づくり</p> <p>病院・買い物モノの送迎</p>	<p>若い移住者への地域コミュニティへの参加支援</p> <p>若者（若い世代）が感じる敷居の高さ</p>	<p>送迎車の運用（コミュニティバス）ムリ</p>	<p>休耕地対策 → 農業体験（採れたものはマルシェなどで売）</p> <p>休耕地の私用野菜づくり</p> <p>農業体験 → 野菜の販売</p> <p>野菜の販売 ↓ マルシェ</p> <p>PTA 町会のつながりづくり</p>	
グループ					<p>税込減少 ↓</p> <p>長期プランを企画立案で予算化</p> <p>分権が必要 ↓ ↓ ↓ それぞれでづくり</p> <p>市にメリットをアピール</p> <p>お金をもらうには計画が必要</p> <p>計画には根拠が必要</p>

## グループ①

# コミュニティカレンダー作り

## 実施概要

各団体の横のつながりを作る

各団体、組織が、より活性化できる様な活動

取組の背景として  
担い手の減少→活動の縮小（青少対、PTAなど）  
今後、町会など会員の減少→団体統合の方向

## いつ/どこで/頻度

季節ごと

## 担い手・協力者

組織が必要

まずは今の推進会議メンバーで進める

## 進め方

まずは一度作ってみよう！！

実行委員会の設置

既存組織、行政の各部署との調整が必要  
推進会議の所属メンバーで継続することが大事

## ターゲット

地域全体

世代別で作成

農業など  
カテゴリー別でもOK

地域全体は難しいかも？

休耕農地の活用へ

# 第5回 川口中学校区地域づくり推進会議 ワーク内容

グループ②

## 推進委員の設置

### 実施概要

各町内会や地域活動団体に推進委員を設ける

推進委員とは？  
団体の代表者ではない新しい人

推進委員の役割  
地域の困りごとや要望を集め、地域（推進会議）で共有する

推進委員の役割  
地域のイベントや活動情報を集め、地域で発信する

若い人の地域参加を促す！

現状では、代表者など1人の人に役割が集中

### 地域の拠点（どこで）

会議の場所の候補  
・町会の会館  
・川口事務所  
・やまゆり館

川口事務所は集まりやすい

空き家を活用し拠点（身近にある気軽に集まれる場）

小学校・中学校の空き教室

### いつ

1回/3ヶ月の頻度で開催（年4回）

仮に推進会議の開催頻度が1回/1ヶ月の場合

### 担い手・協力者

地域づくり推進会議（拡大会議）

新メンバー

学運協は多世代の意見が出る  
↓  
地域づくり推進会議の構成団体

町会  
学運協  
PTA  
民生委員  
こども会

参加

川口商店街  
年1回集会あり

移動販売関係者

上川ふれあいの里（NPO法人）  
・ひまわり迷路などを開催

### ターゲット

仕事をリタイアした男性  
→地域との接点づくり・地域活動への参加支援

60～72才の方  
特に男性（民生委員の対象外）



# 第5回 川口中学校区地域づくり推進会議 ワーク内容

グループ

## マルシェ

### 実施概要

ゆくゆくは、仕事・生業（コミュニティビジネス）として運営

目的

地域の活性化

市の情報発信

地域資源の再活用

困っている方を助ける支援する発想

農産品の地産地消（地域の特長）

実施内容

顔が見える関係づくり

多世代の交流

外国人とのネットワークづくり

SNS発信

フードドライブ（フードバンク等）食料配布

料理教室

販売拠点

### いつ/どこで

まずは1回やってみる →

大きな拠点

+

川口地区の小さな公園  
地域資源の活用

### 担い手・協力者

担い手

ボランティア有志

→運営

協力者

農家

→農産物販売

企業？

市、行政

→拠点用意

中学生若い世代

→情報発信（SNS）

### 進め方

スモールスタート  
まずは小さくやってみる

最初は有志ボランティア？で試行してみる

推進会議の枠組みを活用して実施

既存事例にヒアリング  
→『暖炉』

予算案づくり

マルシェ実行の予算積算

### ターゲット

町会に入ってくれる人を増やしたい→

まずは新しい住人

以下のひとびとも対象に

子ども  
高齢者

生活に困っている方

地域の農家

### 必要な物資・資材など

活動のための人・モノ・金